

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	あすなるHOP		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 1 月 4 日		令和 7 年 2 月 28 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和 7 年 1 月 4 日		令和 7 年 2 月 28 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 3 月 1 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	すべての保護者が支援プログラムが適切だと感じている(合っていると回答)。これは事業所が提供する支援内容とよく合っていることを示しています。	保護者との定期的なフィードバックを通じて支援プログラムの内容を継続的に評価し、必要に応じて改善を行っています。これにより、子どもたちに最適な支援が提供できるよう努めています。	保護者と子どもたちからの具体的なフィードバックをもとに、支援プログラムをさらに細かくカスタマイズし、各子どもの発達段階や特性に合わせた支援を強化します。さらに、新しい教育技術や療育手法を積極的に取り入れ、プログラムに革新をもたらすことで、サービスの質を高めます。
2	生活空間は清潔で心地よく、子どもたちの活動に合わせた空間が保たれています。	子どもたちが清潔で安全、かつ心地よい環境で過ごせるよう、日々の清掃と定期的な環境チェックを行っています。また、子どもたちの活動に合わせて空間の配置を適宜調整し、最適な学びと遊びの場を提供しています。	環境の改善に向けて、最新の教育機器や遊具を導入し、安全で刺激的な学習環境を提供します。また、バリアフリー設計の見直しや、情報通信技術(ICT)の活用を進めることで、すべての子どもが快適に過ごせる環境を整えます。
3	子どものことを十分に理解し、専門性のある支援が受けられていると全員が回答。	職員の継続的な研修とスキルアップを支援することで、子どもの個別のニーズに応じた高品質な支援を実現しています。	職員の専門性向上のために、国内外の研修プログラムへの参加を促進し、最新の療育知識や教育手法を学ぶ機会を増やします。また、職員間のコミュニケーションと協働を強化するためのチームビルディング活動を定期的に行い、組織全体の連携と効率性を高めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会の開催が少なく、保護者同士の情報交換が限定的であることが課題として挙げられています。	現行のプログラムと活動計画が保護者会や家族支援プログラムの拡充に制約を与えています。さらに、保護者の生活スケジュールの多忙さが事業所主催のイベント参加を困難にしている場合があります。	保護者会や家族支援プログラムを通じて、保護者間の交流機会をさらに増やし、保護者同士のサポートネットワークを強化する。
2	きょうだい向けのイベントや支援が十分に提供されていないため、家族全体への支援が十分でないと感じる保護者もいます。	きょうだい向けの支援プログラムが未開発であるため、これらのニーズを満たす体制が不十分です。また、事業所内できょうだい特有の問題への対応能力や専門知識が足りないことも一因です。	きょうだい支援を強化するためのプログラムを開発し、家族全体が支援を受けられる体制を整える必要。
3			